

地球環境を破壊してきた”人類”の歴史、 これからの変革は



「・・・われわれ人間が自然に対して勝ち得た勝利に、あまり得意になりすぎないようにしよう。　　そうした勝利の度ごとに、自然は我々に復讐するのである。・・・」（エンゲルス『自然弁証法』より）

もとより、農漁業・工業技術の
発展、文化・生活向上の素晴らしい
発展をつくりあげた人類による
成果を否定するものではない。

2016/12・電力兵庫の会：速水二郎、わかもの学習会のため作成
サークルやつどいなどでご活用を
写真・イラスト等ふんだんに借用していますので、
営業用には使わないで下さい。

下記2著の内容にヒントを得てつくりました。

『公害・環境問題と東電福島原発事故』畑明郎編著・本の泉社

『水力発電が日本を救う』竹村公太郎著・東洋経済新報社

☆2021年、地球温暖化やコロナパンデミックで、補強・修正
しました。

古代文明時の地球環境破壊

地球誕生から45億年、人類誕生は約400万年前、現人類の誕生からは約20万年経た。新石器時代は約1万年前から始まり、人類による古代文明発祥は約5千年前で、鉄器時代は約3千年前である。



メソポタミヤ・エジプト・インダス・中国黄河の四大文明による青銅や鉄の製錬には大量の森林伐採によるエネルギーを必要とした。

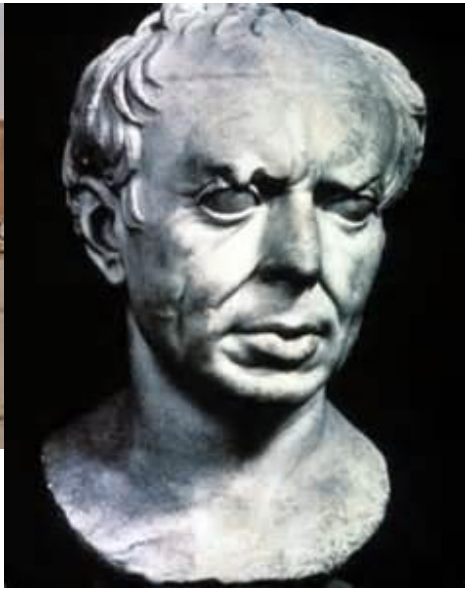
製錬とともに耕地を得るため森林を根こそぎ引き抜き、水分が蓄える場所を奪い去った。

こうして、豊かな森林地帯だった地域は今や乾燥化・砂漠化し、人類が住めない土地となっている。

秦の始皇帝は万里の長城を築いたが、あの膨大な数のレンガを焼くため黄河流域の森林をほぼ絶滅させ、今日、春になれば黄砂の被害に悩まされている。

中東紛争下のニュースを見ても、かつてレバノン杉の森林に覆われた豊かな光景を想像することは出来ない。

ギリシャ・ローマ時代の環境破壊



金属製錬の排煙が人体に有害であることは知られていた。ローマ時代では、鉛が食器・台所用品・水道管に広く使われ慢性鉛中毒が蔓延、水銀、ヒ素など重金属流出による自然破壊で、地形の改変、土石流の発生、土壤悪化も進み、ローマ帝国衰退の一因となった。

日本の中心奈良盆地では6～8世紀、飛鳥京・藤原京・平城京と続いた。世界最大の青銅製大仏をつくる技術が発展していたが、大仏表面の金メッキに大量の水銀が使われたため中毒が蔓延した。

8世紀末突然京都へ遷都する。当時20万人口の奈良を支えるのに年間100万本の伐採が行われ奈良周辺の森林は消滅して人々が住めなくなっていたのだ。



14世紀のペストと資本主義の誕生、マルクスの研究

- ▶ 14世紀のペスト（黒死病）は、中央アジアからクリミヤ半島を経由してヨーロッパに運ばれた毛皮についていたノミに寄生し、そのノミによってクマネズミが感染し、船の積み荷などとともに、海路に沿ってペスト菌がひろがったのではないかと推定されている。
- ▶ 1348年にはアルプス以北のヨーロッパにも伝わり、14世紀末まで3回の大流行と多くの小流行を繰り返し、猛威を振るった。正確な統計はないが全世界で8500万人、当時のヨーロッパの人口の3分の1から3分の2に当たる約2000万人から3000万人前後、イギリスやフランスでは過半数が死亡したと推定されている。場所によれば60パーセントの人が亡くなった地域もあった。



14世紀ヨーロッパのペスト犠牲者の会が・ウィキペディア

ペスト流行史

『ローマ帝国時代』西暦165～185年に起こり、350万から700万人の人々が死んだ。

『東ローマ帝国時代』西暦542～543年にかけてビザンツ帝国で流行。

『中国の流行』「1331年河北で疫病が発生し、人口の9割が死んだ」という記録がある。

『北里柴三郎の功績』19世紀末中国雲南省で大流行した腺ペスト。1894年香港大流行をきっかけとして世界的に拡大した。ロベルト・コッホに師事した北里は日本政府により香港に調査派遣され、病原菌を共同発見した。同じ年のほぼ同時に、パスツール研究所の細菌学者たちもペスト菌を発見し、ペストの原因がはじめて確定された。

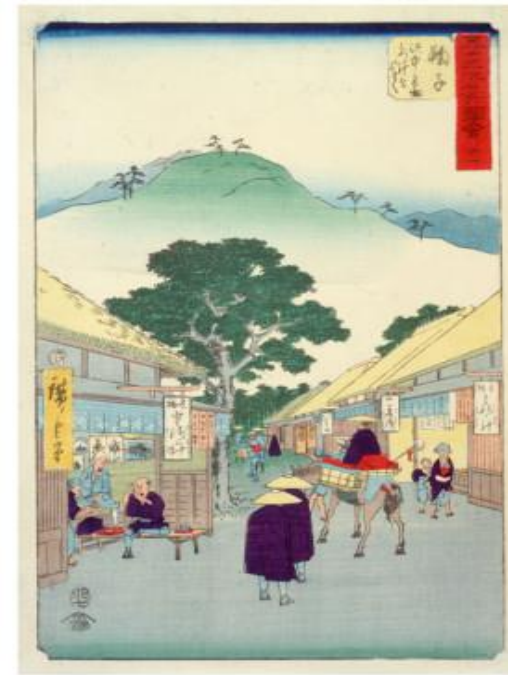
☆☆ペストは、ヨーロッパの社会、特に農奴制に大きな影響をおよぼした。農村人口の激減はかえって封建領主に対する農民の地位を高めることとなった。

☆☆たとえば、イギリスでは労働者の不足に対処するため、国王エドワード3世が1349年にペスト流行以前の賃金を固定すること（労働者規正法＝力づくで賃金を抑える）などを勅令で定めた。

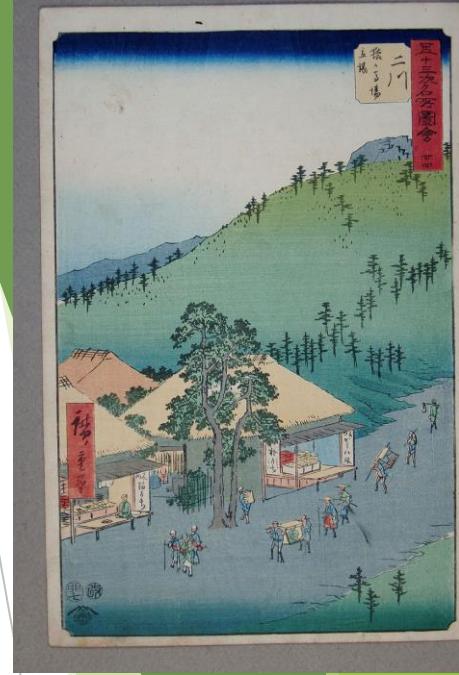
☆☆これは「農奴制から資本主義への歴史の進行を加速させた」といわれ、まぐ巣の研究も深まり「資本家と労働者の数世紀にわたる闘争」の出发点となった。

中近世の環境破壊

- ▶ 15～16世紀に進歩した金属鉱業技術で中央ヨーロッパでは、森林破壊や動植物の激減、鉱毒水による魚類絶滅などが発生、現代ヨーロッパには原生林はほぼ無くなった。
- ▶ 当時の日本でも佐渡金山、石見銀山、足尾銅山、別子銅山など中国・東北地方でじん肺患者、鉱毒問題、森林破壊、河川被害が広がった。



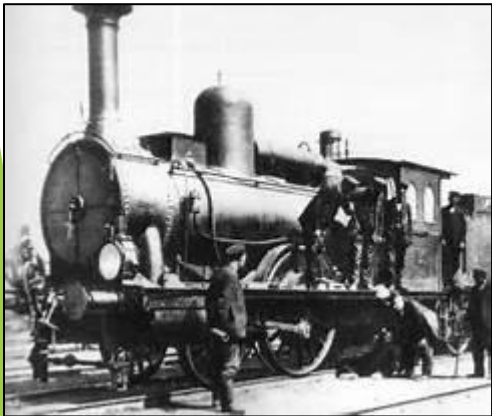
AIIPosters



- ▶ 1590年徳川家康は秀吉に追いやられ江戸に領地を得た。戦国時代、京都・大阪を維持するためのエネルギー源として森林伐採圏は西は山口、北は能登半島、南は紀伊半島、東は伊豆半島に及んでいた。戦国武将家康は、利根川・渡良瀬川など広大な森林地帯を見て江戸幕府を開いたと言える(歴史学者コラッド・タットマンの研究より)。
- ▶ 家康は、江戸を拠点に未開の関東平野を開拓、利根川を付け替えて新田開発を行い、東日本中心の国土構造に転換した。その結果17世紀の百年でコメの生産高も人口も倍増し、平和が250年続いた。
- ▶ しかし鎖国の江戸時代末期には豊富な関東圏の森林も無くなり、幕末の広重の「五十三次」の山の絵にはポツンとした立木しか描かれていない。
- ▶ 幕末神戸を訪れた外国人は六甲山系には木が無く丸裸だと述べているほど、全国 of 自然破壊はひどかった。

18世紀後半以降、いわゆる”産業革命”以降、一層の環境破壊が進行

- ▶ 鉄と石炭の革命と言われる産業革命は、イギリスで始まった。製鉄の燃料が木炭から石炭を蒸し焼きにしたコークスから、高炉製鉄法となった。
- ▶ 「鉄の生産高は1740年にはわずか1万7千トに過ぎなかったが、1834年は約70万トに達した（エンゲルス『イギリスにおける労働者階級の状態』より）」。
- ▶ バーミンガム、マンチェスター、リバプールなどは「黒い地方」とよばれるほど煤煙に覆われた街となり、鳥も蝶も真っ黒となった。



ペリーが黒船で来航したとき、日本人は「この真っ黒い石で、あんなデカい船が動くのか」とびっくりした。

北海道、九州で炭鉱が開発され、1872年新橋・横浜間に石炭機関車が走り出した。

第一次世界大戦、エネルギー資源の奪い合い、環境破壊は最大

- ▶ 100年前の第一次世界大戦、化学兵器が史上初めて使用された。劣勢に追い込まれたドイツ軍は、人類史上最初の大規模毒ガス（塩素ガス）を、その後さらに毒性の強いマスタードガスも使用した。
- ▶ 化学兵器の使用は、人体に深刻な影響をもたらすだけではなく、周辺の土壌、河川汚染を引き起こし生物多様性の破壊など環境悪化の大きな要因となった。
- ▶ さらに戦車、銃器などが大量に使われ、この激戦で両軍合わせ、50万人を超える犠牲者が発生した。



戦争による環境破壊は極めて大きい。

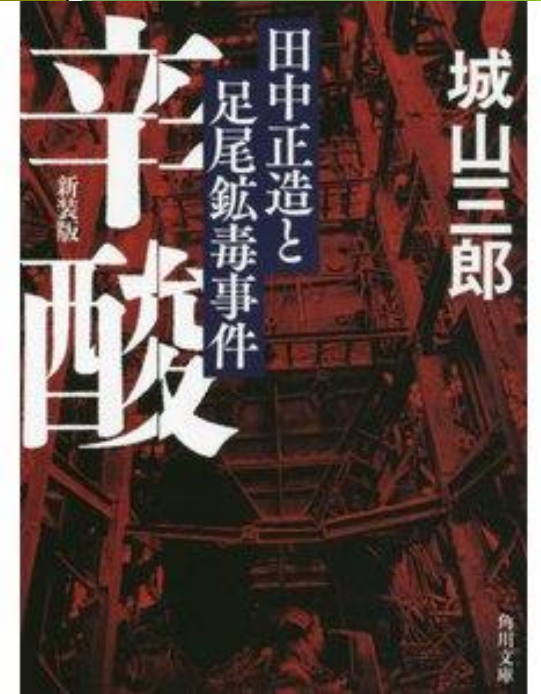
一つは戦争行為そのものによる農地や宅地、自然環境の破壊。

日本でも、戦国時代にはしばしば戦争の舞台になった農地が破壊され、コメなどの収穫に大きな影響を与えた。



日本でも、足尾鉍毒事件と田中正造翁に見る公害反対闘争

- ▶ 足尾銅山鉍毒事件は、19世紀後半の明治時代から栃木県と群馬県の渡良瀬川周辺で起きた、日本で初めてとなる公害事件。銅山の開発により排煙、鉍毒ガス、鉍毒水などの有害物質が周辺環境に著しい影響をもたらした。
- ▶ 1890年代より栃木の政治家であった田中正造が中心となり、国に問題提起するものの、加害者決定はされなかった。過酷なたたかいは城山三郎の名著・辛酸に詳しい。
- ▶ 戦後の1974年5月11日、ようやく調停を成立させた。「100年公害」と言われたこの加害者をついに古河鉍業と断定、歴史的な日となった。
- ▶ 足尾精錬所は1980年代まで稼働を続け、2011年の東日本大震災の影響で渡良瀬川下流から基準値を超える鉛が検出されるなど、21世紀の今日でも影響が残っている。



渡良瀬川下流・現佐野市の田畑の被害



第二次世界大戦、環境破壊は未曾有!



- ▶ 第二次世界大戦は、まさにエネルギー資源の争奪戦だった。日本の場合、軍国主義台頭の要素は当然として、明治以来石炭によって一気に近代化され重化学工業が発展した。
- ▶ ところが第一次世界大戦頃から世界は石炭から石油へのエネルギー政策の転換が進み、日本は窮地に陥っていた。
- ▶ 昭和天皇の独白録では「先の戦争は石油ではじまり、石油で終わった」と書いている。米に石油を止められ「窮鼠猫を噛む」の通りオランダ領インドネシア石油奪取で戦争を開始した。
- ▶ ドイツもソ連のバクー油田を狙い対ソ戦争に踏み切った。
- ▶ 無謀で残虐な軍国政治家によって日本列島は大空襲と原爆によって壊滅、殆どの都市と山々は破壊され、国土の風景は一変した。今も続く植樹祭は、戦後禿げ山だらけとなった国土を再生させるため天皇の発案で決まったと言う。
- ▶ レイチェル・カーソンは、1962年『沈黙の春』で、DDTや農薬による生態系などへの影響を軽視を告発、後にアースディや国連人間環境会議のきっかけをつくった。





高度経済成長でさらなる環境破壊へ 地球全体、ついに異常事態

- ▶ 1960年代以降、鉄鋼・造船・電機・自動車産業の発展、エネルギー源の石油への転換、石油化学工業による高度成長で「大量生産、大量消費、大量廃棄」社会となり、公害列島となった。
- ▶ イタイイタイ病・水俣病・薬害・大気汚染などとコンビナートの垂れ流しによる複合汚染は、極度に日本の自然と国民のくらしを破壊していった。
- ▶ やむなく被害者たちが立ち上がり、様々な裁判闘争を軸にたたかって公害国会を開かせ、公害基本法も確立させた。



2011年3月東日本大震災、福島原発メルトダウン事故は、福島県の東部一帯を、人が住めなくなる土地にしてしまった。
そして10万人もの難民を生み出しながら、原発を推進してきた利益共同体の誰一人も、責任を取らなかった。

ヒロシマ・ナガサキ破壊を反省することなく、戦争行為に付随する兵器の技術革新で、毒ガスなどの化学兵器、生物兵器、原爆などに代表される新型兵器の登場によって環境破壊は広範囲にわたり、深刻化した。

60年代初めから70年代前半まで続いたベトナム戦争では、米軍が上空から高濃度のダイオキシンを含んだ大量の枯葉剤を散布したため、ベトナムの森林、農村、田畑は広範囲にわたって汚染された。さらに戦後、多くの先天性障害を持った子供が多数生まれるなど多くの健康被害が発生した。

また1990年8月のイラクによるクウェート侵攻で始まった湾岸戦争では、米軍が劣化ウランを含んだ砲弾を使用した。劣化ウラン弾は原子力発電所などから出る低レベル放射性廃棄物を使った兵器で、人の体内に入りガンや白内障の原因になり、飛散した放射性物質は土壌や河川、地下水などを汚染し続けている